

平成 2 2 年度診療報酬改定の影響について

- | | | |
|---|---------------------------------|-----|
| 1 | 診療報酬制度について…………… | 1 頁 |
| 2 | 診療報酬請求の流れ…………… | 2 頁 |
| 3 | 入院医療費の包括評価について…………… | 3 頁 |
| 4 | 市立札幌病院の診療収益の構成について…………… | 4 頁 |
| 5 | 平成 2 2 年度診療報酬改定の概要…………… | 5 頁 |
| 6 | 平成 2 2 年度診療報酬改定の市立札幌病院への影響…………… | 6 頁 |

1 診療報酬制度について

(1) 診療報酬の仕組み

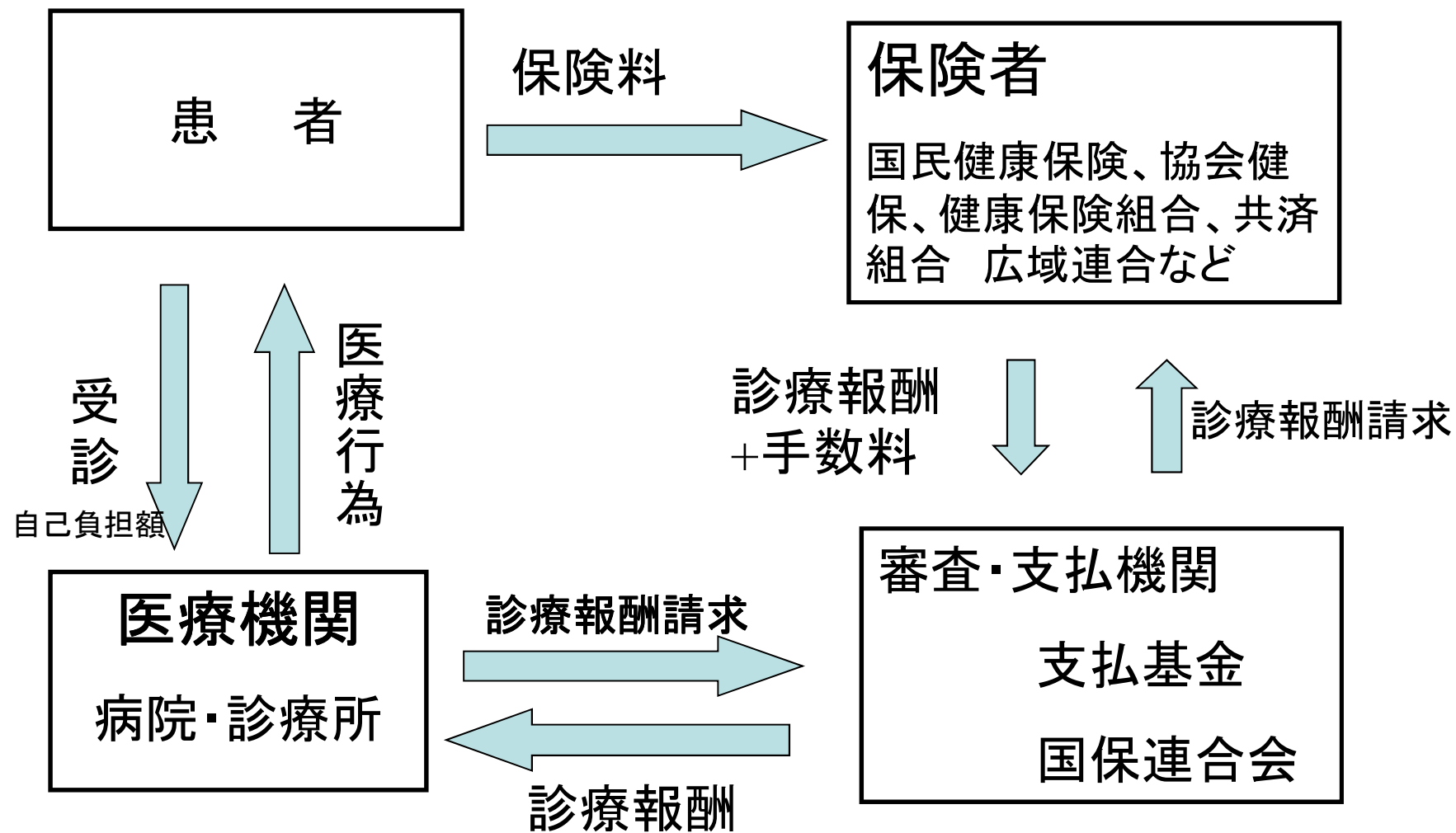
- 診療報酬とは、保険医療機関及び保険薬局が保険医療サービスに対する対価として保険者から受け取る報酬
- 厚生労働大臣が中央社会保険医療協議会（中医協）の議論を踏まえ決定（厚生労働大臣告示）

(2) 診療報酬の内容

- 診療報酬
 - ① 技術・サービスの評価
 - ② 物の価格評価（医薬品については薬価基準で価格を定める）
- 診療報酬点数表※では、個々の技術、サービスを点数化（1点10円）して評価（告示に記載）

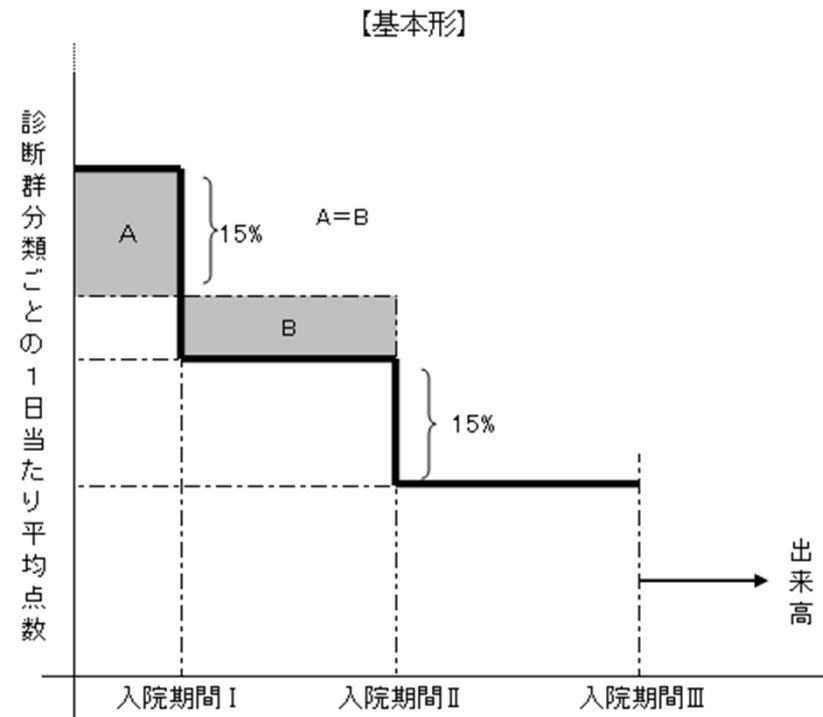
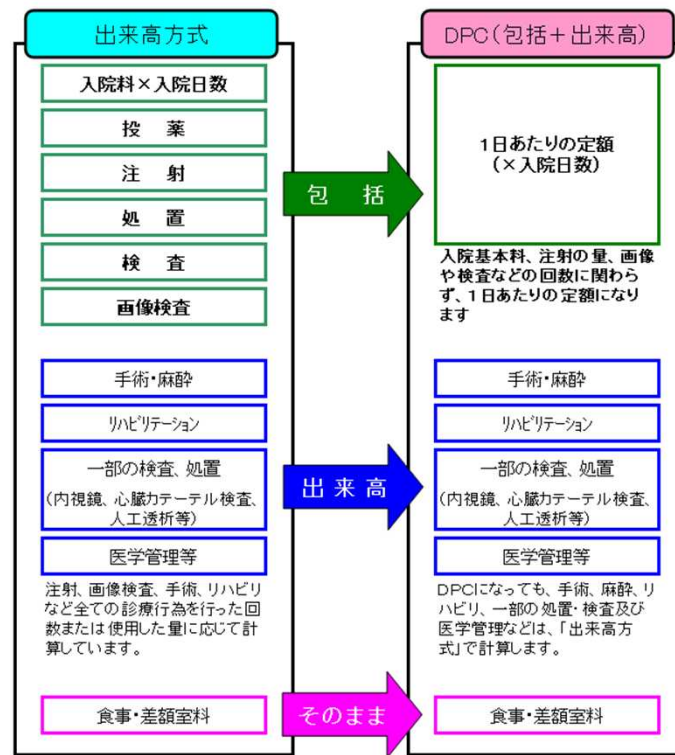
※点数表の種類：医科、歯科、調剤

2 診療報酬請求の流れ



3 入院医療費の包括評価について

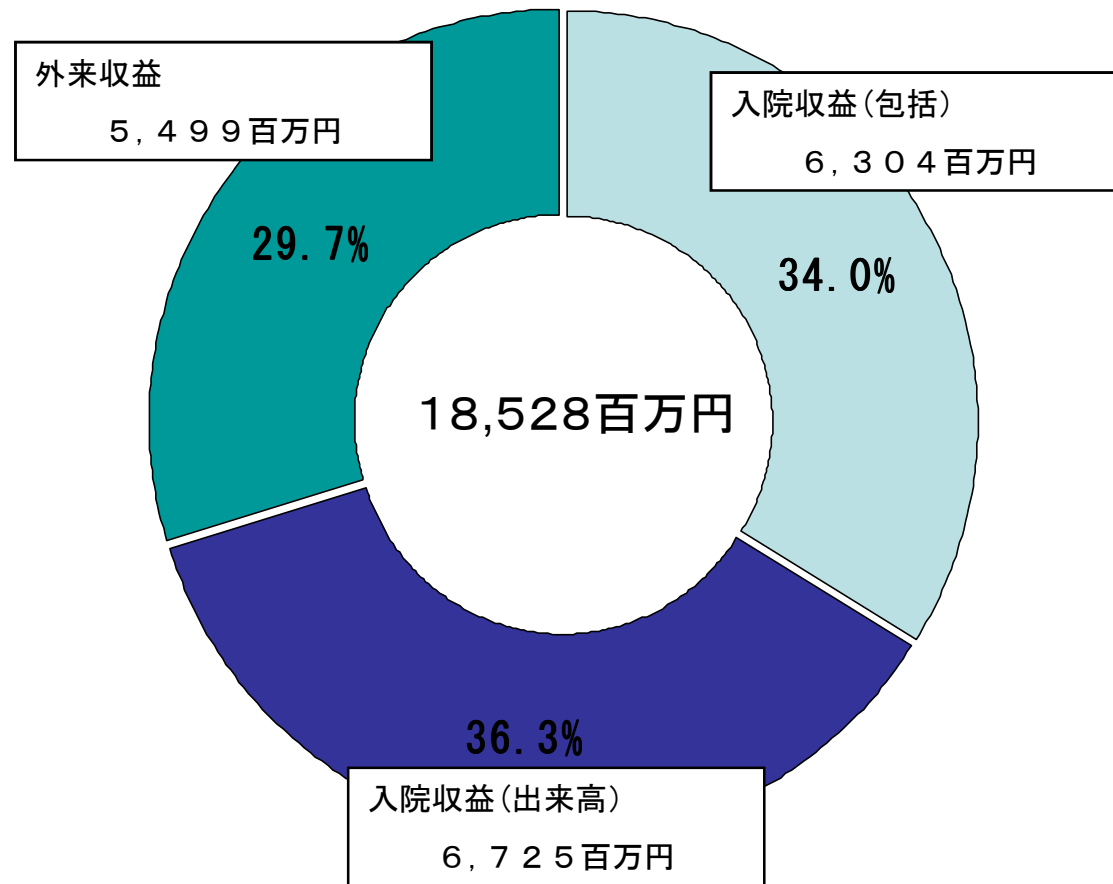
- 現在、急性期の入院診療に関しては、DPCという包括評価が導入（試行）されており、市立札幌病院は、平成20年7月から、DPC対象病院となっています。
- DPCとは、「傷病名」と入院期間中に提供される手術・処置・化学療法などの「診療行為」の組み合わせによる診断群分類をいいます。
- その診療報酬は、下記のとおり診断群分類別に包括的に評価された点数と手術やリハビリなどについては出来高方式で算定した点数の合計額となります。



4 市立札幌病院の診療収益の構成について

平成22年度の診療収益の入院・外来収益の構成は、下記のとおりです。

入院の包括評価分は、全体収益の3分の1を占めており、入院期間の見直しや医薬品の効率的使用等が課題となっています。



5 平成22年度診療報酬改定の概要

全体改定率 +0.19%

⇒ 10年ぶりのネットプラス改定

診療報酬(本体) +1.55%

うち医科+1.74% [入院+3.03%
外来+0.31%]

薬価等 ▲1.36%

社会保障審議会の「基本方針」

1. 重点課題

- ・救急、産科、小児、外科等の医療の再建
- ・病院勤務医の負担軽減

2. 4つの視点

充実が求められる領域の評価など

3. 後期高齢者という年齢に着目した診療報酬体系の廃止

重点課題への対応

- ・救命救急センター、二次救急医療機関の評価
- ・ハイリスク妊産婦管理の充実、ハイリスク新生児に対する集中治療の評価
- ・手術料の引き上げ、小児に対する手術評価の引き上げ
- ・医師事務作業補助体制加算の評価の充実、多職種からなるチーム医療の評価

4つの視点(充実が求められる領域の評価、患者から見てわかりやすい医療の実現など)

- ・がん医療・認知症医療・感染症対策・肝炎対策の推進
- ・明細書の無料発行など

後期高齢者医療の診療報酬について

- ・75歳という年齢に着目した診療報酬体系の廃止

外来収益分

薬価改定の影響(△5.75%)	△ 131 百万円
外来化学療法加算の増	1
合計	△ 130 百万円

入院(出来高)分

薬価改定の影響(△5.75%)	△ 37 百万円
手術手技料の評価	362
周産期・小児等に係る入院料の引上げ	151
救急医療管理加算	20
緩和ケア診療加算	5
医学管理料等の評価	22
合計	523 百万円

入院(包括)分

DPC区分の見直しと点数の見直し (薬価引下げの影響を含む)	△ 146 百万円
DPC係数の見直し(評価)	231
感染防止対策加算	16
医療安全対策加算	6
医師事務補助加算	8
合計	115 百万円

総 計

508 百万円

1. 市立札幌病院が、これまで政策医療として取り組んできた小児・周産期・救急医療が評価され、診療報酬点数が引き上げられたことにより大きな増収となっています。
2. 年間7000件を超える手術で、がんなど特に難易度の高い手術が多いことから、大幅な評価引き上げにより、大きく増収となっています。
3. これまで地道に取り組んできた医療安全、感染管理や勤務医の負担軽減に対して診療報酬上で評価され、それぞれの対応について財源的裏づけを得られました。